

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】(ユニット1)

Table with 4 columns: 事業所番号, 法人名, 事業所名, 所在地, 自己評価作成日, 評価結果市町村受理日. Contains details for 株式会社 健康会.

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL: https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=0172902116-00&ServiceCd=320&Type=search

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 3 columns: 評価機関名, 所在地, 訪問調査日. Details for 企業組合グループ・ダイナミクス総合研究所 介保調査部.

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

法人内の多様なサービス事業所と連携し専門職が個々の身体機能をしっかりとアセスメントし、介護計画書に反映し支援しており入居者様の求めている事や家族様の思いを継続的に実現できる体制で関わっています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は、旭川市の西方向にある閑静な住宅地に位置している2階建て2ユニットのグループホームである。隣接している保育園や近隣に商店などがあり、利用者の散歩や買い物に適した立地である。

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

Large table with 4 columns: 項目, 取組の成果, 項目, 取組の成果. Contains 10 rows of evaluation items (No. 56-62) with checkboxes and descriptions.

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員や来訪者の目に留まる所に掲示し職員へはポケットサイズの理念を書いたカードを配布し判断の指針として確認できるように定着している。	法人及び事業所理念を玄関やスタッフコーナーに掲示し、また、職員にはポケットサイズの理念が記載されたカードを携帯するようにして、普段のケアに関して迷った時に振り返るなど、職員間で共有して実践している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	利用者様と一緒に近所の商店に買い物に出掛けたり、地域との繋がりが持てる機会を作っている。	夏には、盆踊りなどの地域の合同イベントに参加したり、法人内忠和地区の事業所合同でのお祭りを開催し、利用者や家族、地域の方も参加して相互の交流を行っていたが、現在は新型コロナウイルス感染予防のため実施できていない。	新型コロナウイルス感染予防の影響で、地域との付き合いが滞っているため、隣接している同法人の事業所と協力して、地域の一員として日常的に交流できる仕組みが作れるようこれからは期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域のゴミ拾いに利用者様と参加している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	文章と写真にて地域の皆様やご家族様、市職員に運営状況を説明しご感想を頂き今後の活動に活かせるように努めている。	昨年度は7月のみ開催し、家族や市の担当者、町内会などの地域の方が参加され、運営状況の報告や情報交換を行っている。集合開催ができない時は、書面開催として、参加予定者と意見交換を行いサービスの向上に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	長寿高齢課と密に連携し協力関係を築いている。	市の担当者に運営推進会議に参加していただき、運営状況の報告や情報交換を行ったり、運営に関する助言をいただいたりして、協力関係を築くように取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	現在身体拘束を行っているケースはないが必要に迫られた場合はやむを得ず身体拘束を行う場合の対応に基づきケアをする。帰宅願望がある利用者様にはその訴えを受容し体力等に応じて本人の行きたい所まで付き添う等の対応をしているが、現在コロナ過の為、車にてドライブ等にて対応している。	身体拘束廃止適正委員会を設置し、3ヶ月ごとに開催して身体拘束廃止に関する検討を行っている。また、法人全体で指針やマニュアルの整備を行い、年間計画にて研修を実施するなど、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内で教育委員会の開催する虐待研修会に参加したり、職員が外部の研修に参加しユニット会議で職員に周知できるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、成年後見制度を申請している利用者がおり、居宅支援事業所等に相談しながら制度の理解に努めるとともに、現場職員には会議等を通じて学ぶ機会を設ける。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、解約、改定時は家族と十分に話し合い理解と納得を得ている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置と年1度のアンケート調査の実施。	玄関に意見箱を設置したり、毎月利用者毎の生活状況の便りを発行して家族に報告している。アンケートに関しては、教育委員会が集計し各事業所へ内容を伝え、利用者や家族の意見を運営に反映させている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年に2回の職員評価時と適宜面談を行うことにより職員個々とのコミュニケーションを図っている。	毎月のユニット会議の他に、年2回の個人面談を実施している。また、日頃の業務の中で職員の意見を聞き、会議の場で周知をして改善するなど、職員からの提案を運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人人事課にて職員評価(ラダー評価)を実施し、各個人の目標や実績を給与へ評価している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員個々の能力を見極め、その職員に必要な研修を法人内外で案内している。		
14		代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	同圏地域のグループホーム合同研修にて交流の場を設けているが現在コロナ過にて活動自粛している。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用開始時にはコミュニケーションを多く取り入れられる限りご本人の不安を解消できるようにし、信頼関係を早く築けるようにすると共にプランには安心でき関わりを多く持てるサービス内容を設定している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様と連携、面談を行い困っている事や今後の支援についての要望等を聞き入れ家族や本人のニーズに答えられるように関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	センター方式を活用しアセスメントを行い、身体状況やニーズを把握しインフォーマルサービスを含めた対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個々の身体機能を見極め、洗濯干しや洗濯量み等の生活の中の作業の手伝いや場面場面で意思の選択決定ができるような関わりを行っている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	必要に応じて都度電話連絡にて話せる時間を作ったり、面会にて本人の様子を確認できる状況を作ると共に意見やアドバイスを頂いている。毎月お手紙を送付し近況を報告する事で信頼関係を築けるように努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者様の生活歴を把握しこれまで大切にしてきた場所や人たちや家族との関係が途切れないように外出等を実施しているが現在は外出制限や面会制限にて対応できていない。	新型コロナウイルス感染予防のため、直接の面会は実施していないが、玄関で距離を取っての面会を実施している。また、ご家族から手紙をいただいた方は、個別対応にて直接やり取りができるよう、支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し1人1人が過ごしやすく生活環境になるように職員が都度、間に入り居心地良く過ごせるよう支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後、行事の案内や情報提供にて関係を断ち切る事なく継続している。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式を中心としたアセスメントを行い利用者様とご家族様の要望や希望の把握に努めている。	入居前と入居一ヶ月後に利用者やご家族の意向を確認している。また、利用者には日常会話の中で、要望や希望を聞くようにしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者様やそのご家族様だけではなく、以前利用していたサービス事業所や地域包括支援センター、医療機関などから情報収集を行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活シートへの記録を観察し1人1人の過ごし方など現状把握できるように努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当職員を配置し、ご本人、ご家族様、医療機関などの情報収集を行い計画作成と共同でケアプランの作成を行っている。	各居室担当者が、利用者や家族からの意見や要望などを聞き取り、毎月のミーティングの中でモニタリング内容を発表している。その内容を計画作成担当者がまとめ、現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	センター方式、モニタリングを活用しご本人やご家族様の意見や要望を含め医療機関の意見も頂きながら毎月の事業所会議内でチームで情報共有してプラン作成に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況に応じて、インフォーマルサービスの利用提案や施設の住み替えなどの相談を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	2ヶ月に1回の町内会の古紙回収への参加やご本人が自ら外出を楽しむ事ができるように支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人、ご家族様の希望を尊重しかかりつけ医と連携を図りながら適切な医療が受けられるように支援している。	入居契約時に、かかりつけ医について説明し、往診にて対応している。入居前からのかかりつけ医を継続する場合は、家族対応にて病院受診するが、本人及び家族等の要望を大切に適切な医療が受けられるように支援している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員の配置はないが、提携医療機関との密な連絡と情報共有で適切な支援が受けられるように対応している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時の物品運びや洗濯物の交換などの支援を行い、早期退院できるように医療機関と頻りに連絡を取り状況把握できるようにしている。			
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	入居時に重要事項の説明を書をもとに説明後医療機関からのICを機に看取りプランに移行し、ご家族と共に支援できるように取り組んでいる。	入居時に重度化や終末期に関する内容を説明し、同意を得るようにしている。また、時期が近づいた時に、改めてかかりつけ医より説明を行い、本人や家族の意向を確認してから看取りの意向確認書を交わし、チームで支援に取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応についての研修に参加し、不参加の職員へは事業所会議を通じて周知できるようにしている。			
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、夜間想定避難訓練の実施をしている。	避難訓練は、夜間・日中と年に1回ずつ実施している。また、BCPを作成し、避難の流れや避難場所、備蓄の確認など、災害に備えて職員が身につけられるように災害対策に努めている。	BCPの作成は行っているが、職員への周知や想定した訓練の実施が不十分であるため、全職員が避難できる方法を身につけることができるような体制が築いていけるよう期待したい。	

IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇マニュアルを基に職員1人1人の対応を日々確認し必要に応じて教育している。	言葉遣いに関する事は、職員同士で注意し合ったり、接遇研修を定期的に行っている。また、利用者のプライバシーに関する内容を利用者の前で話す際は、職員同士でわかる暗号(○番さん)で呼ぶなどの工夫をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の生活歴を把握し日々のケアの中でも思いや言葉を傾聴し自己決定できるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたか、希望に沿って支援している	個々の活動ペースを把握し希望時は職員間にて対応の相談をしながら、日々の生活が居心地よくなるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自己決定を尊重しながらその日の着る衣類の選択や化粧をできるように支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	外部発注にて栄養士の作成したメニューを職員にて調理し食器出しや皮むきなどを行ってもらい食事作りに参加もして頂いている。	献立と食材は外部委託にて提供されているが、入居者の希望を聞き取り、メニューを変更したり、行事の日には通常のメニューにプラスαをして工夫されている。利用者が役割をもてるように準備や片づけも手伝ってもらっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1人1人の摂取量や苦手な食べ物は代替えの食材にて工夫し水分についてもゼリーや本人の嗜好品の把握にて栄養バランスを考えながら提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声掛けにて清潔保持が保てるようにしている。必要に応じて歯科医の訪問診察も行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	生活シートを活用し本人の排泄リズムを把握し、個々に合わせたトイレ誘導を行っている。	生活シートにて利用者ごとの排せつパターンを把握している。排便に関することは、別紙で一覧表を作成して申し送りをして把握に努めるなど職員同士で情報共有している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事は栄養士の管理下のもとに調理し提供しており、本人の水分量を把握しながら適度な運動を取り入れている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に沿った支援をしている	曜日や時間を設けずに個々に入浴を楽しんで頂けるように支援している。湯加減も本人の希望に添って変えている。	週2回の提供と毎日入浴を実施し、対応できる範囲内で個々の希望に合わせた入浴を提供している。また、入浴拒否する方への対応としては、時間をおいたり、声かけを工夫したりして入浴できるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活習慣や身体状況に合わせて休憩や傾眠できる場面を作るように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬マニュアルを基に、薬剤情報を職員がいつでも確認できる場所に置き、服薬の際も必要に応じて介助している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴を把握した上で、家事などの支援を行ったり、外出などの支援を行っている。嗜好品の提供や行事を通じて気分転換に繋がるように支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出は本人の希望があればできる限り対応できるようにしている。買い物についても家族と相談しながら行っている。	新型コロナウイルス感染予防により、外出の頻度は少なくなったが、個別対応にて近隣のコンビニやスーパーへ行ったりして戸外に出かけられるよう支援に努めている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在は希望者はいないが、ご家族の了承のもとに希望される方が現金を所持できるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	都度、電話や手紙のやり取りができるように支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は季節に応じた装飾や写真掲示にて不快や混乱を招かないように環境整備に気を付けている。又音や光、気温などにも気を配り居心地の良い空間を作るようにしている。	共用空間は、採光や風通しもよく整理整頓されている。季節に合わせて飾り付けをしたり、ホーム内に利用者の作品や写真を掲示したりして、居心地良く楽しく過ごせるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファやテーブルの配置を工夫し1人1人が思い思いに過ごせるように努めている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には本人が使い慣れた物や好みの物を持参し、安心して居心地良く過ごせるように努めている。	居室は、備え付けのベッドと収納があり、定期的に掃除をして整理整頓されている。また、利用者が使い慣れた家具や馴染みの物を持参されており、本人が居心地良く落ち着いて過ごせるように工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや風呂場に張り紙をしている。		